

親切につながる勇気

山口県 岐陽中学校 1年 福岡 奈砂

「知らない誰かが困っていたとき、声をかけるのは勇気がいりますよね。」

そんな言葉をいつかテレビで聞いたことがある。私はそんなこと簡単でしょ、と思っていた。

私は昔から社交的で、初対面の人とでもすぐに話すことができた。買い物に出かけたときも重い荷物を持った人に、持ちましようかと声をかけることができた。あるとき、おばあさんが荷物を大変そうに持って歩いていた。私は周囲を見渡したが、大人は誰かがするだろうと知らんふりをしていた。私はかけよって、

「大丈夫ですか？ 持ちましようか？」

と声をかけた。これで私はまわりの大人たちとは違い、助けてあげたんだと思っていたとき、

「年寄りだからって馬鹿にしないでくれる。」

と冷たい声がした。私は耳を疑った。それはおばあさんの発した声だった。私は何も言い返せず、気まずいままおばあさんを見送った。

それから私は、まわりの大人と同じように見て見ぬふりをするようになり、自分には関係ないんだからと自分に言い聞かせるようになった。しかし、買い物をした帰り道はつらそうに荷物を持って帰る人がたくさんいた。でも私はその人たちから目をそらした。すると、

「暑いですね。重たいでしょう。少し持ちますよ。」

という温かい声が聞こえた。私が目をあげると、若い男性が笑顔でおばあさんに声をかけていた。おばあさんは、

「悪いわねえ。じゃあ、お願いします。」

とにこやかに言っていた。あの男の人と私が言った言葉、何が違うのだろう。私は家に帰って一人で考えてみた。

すると、そこに母がやってきた。今日のできごとを母に話すと、「その男の人は、おばあさんのことを考えていたんじゃない？」とだけ言った。「私だって考えてるよ！」と言い返そうとして、はっとした。私は本当におばあさんのことを考えてあげていただろうか。本当は、自分が助けてあげたという自己満足でしかなかったのではないかと思った。そして、あの知らんふりを平気でするような大人たちと、同じ行動をしていた自分を恥じた。

だから、私はあのとき見た男性のように、その人のことを考えて話しかけるように意識している。そして、それを行動に移すことがとても勇気がいるのだと知った。自分のためではなく、相手を思いやることで成り立つ親切は、その勇気分だけ相手も自分もあたたかい気持ちになれるのだと思った。昔テレビで言っていた「勇気がいる」ということは、こういうことだったのだと初めて実感した。

私はこの経験から、知らない人に声をかける勇気ではなく、相手のことを考えられる自分と向き合う勇気が親切につながるのだと思った。今度、また大変そうな人を見かけたら、その人の心に寄り添えるような行動をしたい。